

北海道大学大学院文学研究科

平成 28 年度修士論文

写真投影法による小学生の観覧行動研究  
— 神奈川県立生命の星・地球博物館を事例に —  
(概要)

文学研究科 歴史地域文化学専攻

指導教員 佐々木 亨

学生番号 05153019

氏 名 相良 真緒

## 1)要旨

本研究は、博物館の観覧における小学生の興味関心と学びの関連を明らかにすることを目的とした。なお、本研究では「興味関心」を「観覧前から持っていた嗜好」、「学び」を「観覧を通して得た気づき」と定義する。「気づき」とは、必ずしも教育的事項には限らない。

観覧行動研究においてこれまで主に行われてきた観覧動線調査や滞留時間測定の結果と被験者の学びは直結しないとの指摘がある。この点を考慮し、本研究では写真投影法を用いた面接法によって、調査参加者である小学生の学びを明らかにすることとした。

調査は神奈川県立生命の星・地球博物館で行った。調査内容としては、調査参加者に対し、事前アンケートで属性と興味関心を、観覧中の撮影で観覧及び学びの対象を、そして事後ヒアリングで学びの内容及び興味関心に関する補足的内容を収集した。その結果、有効サンプル数は45組60名であった。

このような調査から得たデータより、興味関心と観覧対象の関連及び学びの内容から、調査参加者を質的に類型化し、6つの学びの傾向型を得た。見たまま・感覚・感情的な言葉が目立つ第1型、自分の好きなものとの一致が目立つ第2型、自分のエピソードにまつわる学びの多い第3型、展示内容の読解が目立つ第4型、博物館体験を記録するという意図が見える第5型、そして、多岐にわたる興味あるいは収集のつかないタイプの第6型である。このように、興味関心と学びの関連の仕方は6つのタイプに分けられることがわかった。

次に、各学びの傾向型と属性情報ごとにクロス集計を行い、各型の属性的な特徴について類推した。これにより以下の結果を得た。第1型は低学年で地球博物館のみに親しみがある者・第2型は理科が好きで定期的に博物館へ訪れる者・第3型は高学年で自然史系より科学系に親しみがある者・第4型は高学年で、自然史系に親しみがあるあるいは理科や科学の勉強や宿題のために来館した者・第5型は地球博物館へ来館が5回目以上あるいは博物館が初めての者・第6型は理科が好きではなく博物館へ親しみがない、あるいは高学年や来館回数の多い者、である。このように、興味関心と学びの関連の仕方の各タイプにおいて、属性的な特徴が存在することを明らかにした。

また、調査への参加が小学生にとって一過性の体験ではなく「学び」たり得たか、という点が重要である。保護者からは普段よりも真剣に観覧していたという回答が複数あった。このことから、調査への参加は小学生にとって、博物館と真剣に向き合う機会を提供したと言えるであろう。また、同じく保護者へのヒアリングにおいて、小学生の興味が意外だった、あるいは再確認できたという意見も得られた。保護者が我が子である小学生の興味関心や学びについての認識を改める機会となったという点では調査への参加は有意義な「学び」たり得たと言えよう。

## 2)調査手法とデータ収集結果

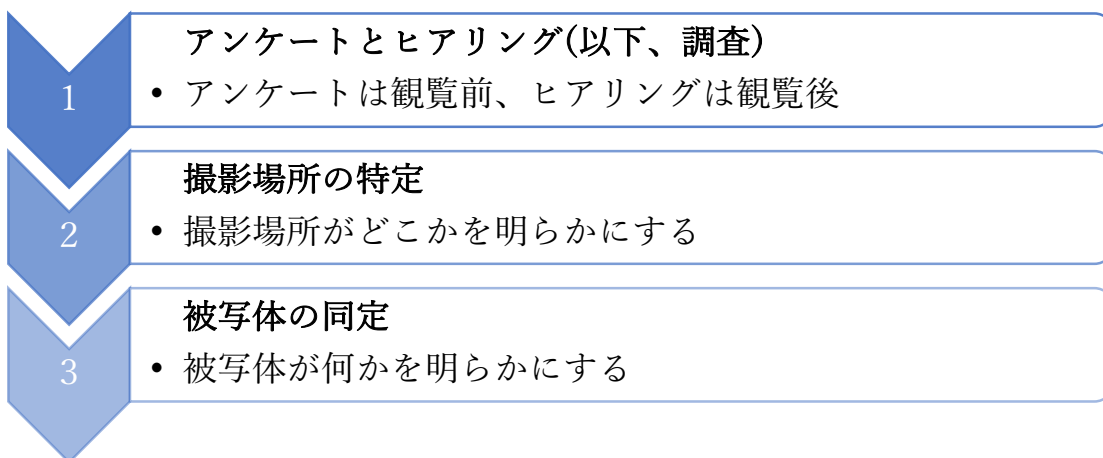


図 1 調査全体の流れ

本研究では図 1 の流れでデータ収集を進めた。以降、1)アンケートとヒアリングの段階のことを「調査」と呼ぶ。図 1 に示した流れ全てを指す場合は「調査全体」と呼称する。



図 2 調査のフェーズ

調査の流れは図 2 のように行った。2)筆記アンケートと 5)写真を通してヒアリングは保護者にも行った。なお、本研究の対象は親子連れではなく小学生であるため、保護者の回答は全て、小学生の回答を補強するように用いた。調査により収集したデータは表 1 の通りである。また、収集したデータの有効数については表 2 に示した。

表 1 質問項目一覧

2)筆記アンケート 小学生	2)筆記アンケート 保護者	4)観覧しながら撮影 小学生	5)写真を通してヒアリング 小学生	5)写真を通してヒアリング 保護者
氏名	氏名	写真の画像データ	アンケートの書きづらかったところ	アンケートの書きづらかったところ
性別	性別	撮影場所	最大20枚の選択+選択理由	小学生の普段の興味
学年	年齢	被写体が何か	選択した中からのお気に入りの1枚+理由	小学生の写真を見て気づいたこと
住所	住所		選択した写真のラインナップで気づいたこと	調査日に観覧して新たに発見したこと
好きな教科	小学生との関係		好きなものと選んだ写真の関連	過去の来館時と違った点
最近ハマっているもの	博物館は好きか+理由		調査日に観覧して新たに発見したこと	
博物館は好きか+理由	他館の来館経験		過去の来館時と違った点	
他館の来館経験	調査日の来館理由			
調査日に楽しみにしてきたこと	調査日に楽しみにしてきたこと			
地球博物館の来館回数	地球博物館の来館回数			
(2回目以降のみ)以前いつ来たか	(2回目以降のみ)以前いつ来たか			
(2回目以降のみ)以前誰と来たか	(2回目以降のみ)以前誰と来たか			
[調査参加日・何組目か・何人目か]	[調査参加日と何組目か]			

表 2 サンプル数

調査実施日	8月	9月	総計
	(2日,3日,5日,6日)	(17日,18日,19日)	
アンケート回答グループ数	25	20	45
アンケート回答小学生数	43	22	65
調査完了小学生数	41	21	62
有効小学生数	39	21	60
写真の有効総枚数	656	361	1017

収集したデータは、学びの傾向型分類と属性として用いた。青文字は学びの傾向型分類に使用したもので、赤文字が小学生の属性として扱ったものである。属性は学びの傾向型とのクロス分析に使用した。黒文字のものは不使用とした。

表 3 収集データの使用用途一覧

2)筆記アンケート 小学生	2)筆記アンケート 保護者	4)観覧しながら撮影 小学生	5)写真を通してヒアリング 小学生	5)写真を通してヒアリング 保護者
氏名	氏名	写真の画像データ	アンケートの書きづらかったところ	アンケートの書きづらかったところ
性別	性別	撮影場所	最大20枚の選択+選択理由	小学生の普段の興味
学年	年齢	被写体が何か	選択した中からのお気に入りの1枚+理由	小学生の写真を見て気づいたこと
住所	住所		選択した写真のラインナップで気づいたこと	調査日に観覧して新たに発見したこと
好きな教科	小学生との関係		好きなものと選んだ写真の関連	過去の来館時と違った点
最近ハマっているもの	博物館は好きか+理由		調査日に観覧して新たに発見したこと	
博物館は好きか+理由	他館の来館経験		過去の来館時と違った点	
他館の来館経験	調査日の来館理由			
調査日に楽しみにしてきたこと	調査日に楽しみにしてきたこと			
地球博物館の来館回数	地球博物館の来館回数			
(2回目以降のみ)以前いつ来たか	(2回目以降のみ)以前いつ来たか			
(2回目以降のみ)以前誰と来たか	(2回目以降のみ)以前誰と来たか			
[調査参加日・何組目か・何人目か]	[調査参加日と何組目か]			

### 3)本編・資料編送付希望連絡先

ご希望の方には、本修士論文の本編および資料編をお送り致します。お手数ですが、以下のアドレスまでご連絡をお願い致します。

北海道大学 文学研究科 北方文化論講座

[hoppou@let.hokudai.ac.jp](mailto:hoppou@let.hokudai.ac.jp)